

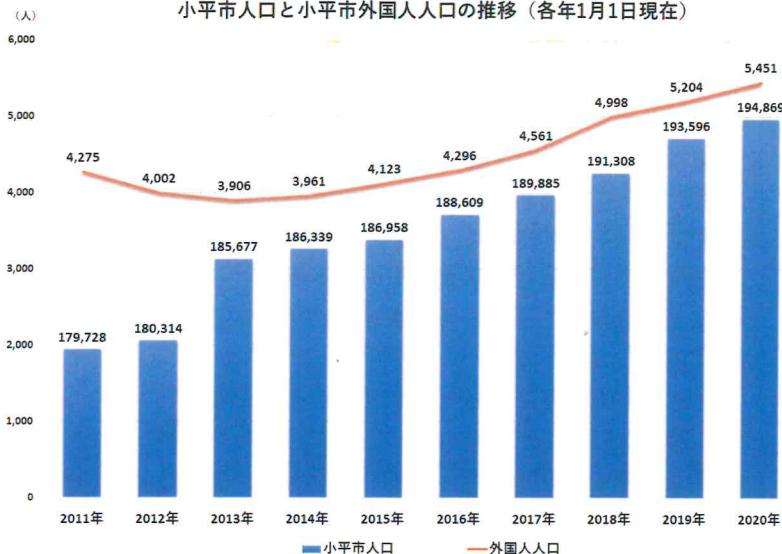
2021年
No.93
4月1日発行

国際こだいら

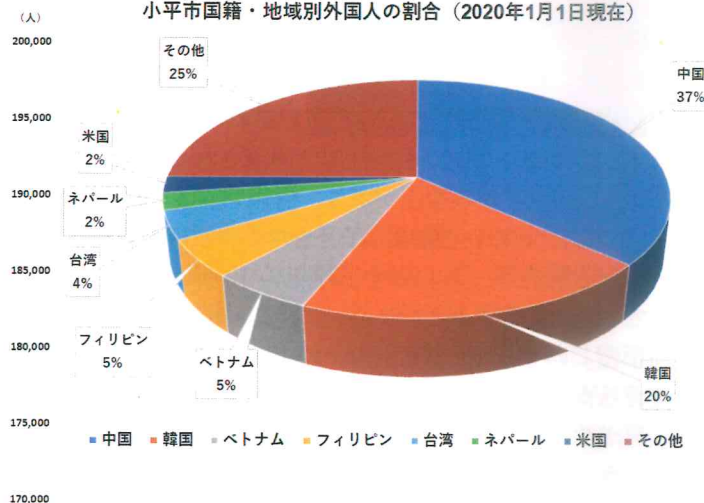


KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)

小平市人口と小平市外国人人口の推移（各年1月1日現在）



小平市国籍・地域別外国人の割合（2020年1月1日現在）



データ出展：東京都の統計「外国人人口」

小平市の在住外国人とKIFAの関わりについて

小平市国際交流協会（KIFA）の事務所は、市内のほぼ中心部に位置する小平市立学園西町地域センターの3階にあります。日々の運営は、事務局と11のボランティアグループの連携により行われています。協会の活動については、この機関紙で様々な取り組みについて紹介をさせていただいていますが、今回は、市内の在住外国人とKIFAとの関わりについて触れてみたいと思います。

小平市には2020年1月1日現在で、人口の約2.8%にあたる約5,400人の外国人が暮らしています。国籍別では、中国が約2,000人、韓国が約1,000人、ベトナムが約300人、フィリピンが約270人、台湾が約210人、ネパールとアメリカが約120人と続きます。ここ数年、ベトナムとネパール出身の方が増えています。

学園都市の性格から、特徴として、市周辺の大学の留学生が多く、KIFAのイベントへの参加や協力があります。近年の留学生の出身地は、欧米諸国から中国、韓国、東南アジア諸国にシフトしてきています。毎年春に実施している、児童向けの国際理解を育む講座「国際こどもクラブ」や、秋に実施している「多文化理解講座 in English」の講師役をお願いすることも多いです。また、コロナ禍の影響で昨年度は休止となりましたが、「国際交流フェスティバル」や「商店街ツアー」、「餅つき大会」、「交流イベント」などでも参加・協力

をいただいています。

生活の基盤を小平に置き、永住や長期滞在する外国人も増えています。企業で働くエンジニア、レストランを経営する人、日本人と結婚した配偶者など、背景も多様です。彼らのニーズも様々なので、週3回の日本語会話教室で学習の場を提供するだけでなく、説明会などを開いて生活支援にもつなげています。同時に、KIFAの講座やボランティアでも協力していただき、活躍の場を広げてもらうようにしています。

近年増加中の技能実習生の動向については、市内の中小事業所に在籍中と思われそうですが、正確な情報がかみにくく、アプローチの難しさを感じています。金曜夜間の日本語会話教室に参加する人もいますが、仕事の都合で出席できない日が続くことも多く、今後の課題であると考えています。

長期滞在の外国人が増えることは、外国にルーツをもつ子どもたちが増えることでもあります。水曜日の夕方に実施している「こども日本語・学習支援教室」は、彼らにとって、学校や家庭とはまた違ったほっとできる『居場所』となっています。

今年度から始まる小平市の「第四次長期総合計画」の基本構想で示された基本目標の一つに「多様性を認め合い、つながり、共生するまち」があります。今後とも、市と連携しながらその実現に努力していきたいと思えます。

事務局長：住田大一郎



ボランティア活動をのぞいてみました！

KIFAには11のボランティアグループがあります。今回は、4つのグループにスポットをあててみました。興味のある方はこちら



こども日本語・学習支援教室 ボランティアミーティング 取材日：2月10日（水）

外国にルーツを持つ子どもたちのための「こども日本語・学習支援教室」（以下、こども日本語教室という）のボランティアミーティングが開催され、その様子取材しました。現在こども日本語教室は、コロナ禍のため小学生が中止、中学生は本人の希望があれば個別対応しています。そのような中でも、外部で開催された研修に参加したボランティアから報告があり、情報共有されました。

一つは、文化庁主催の「子どものための日本語教育研修～子ども初任コース」です。昨年10月から今年1月まで4カ月にわたりオンラインで授業が行われました。「共同学習」のテーマで模擬授業の先生役も務め、厳しくて大変だったとの感想がありました。充実した内容だったため、後日ボランティア内での勉強会も検討されるそうです。

もう一つは、東京外国語大学主催のオープンアカデミー「外国にルーツのある子どもたちへの日本語教育」です。これまでの知識の整理とともに、新しい知識も得られ、日本語初期指導の大切さが理解できたとのことでした。

こども日本語教室が立ち上がって6年、経験が積み重ねられ、体制が整ってきました。現在、12名の子どもたちが在籍していますが、今後さらに教室に通いたいという

子どもたちが増えていくことが予想されます。教室の拡大が課題になってきますが、開催時間や場所、人材など検討すべきことも多く、少人数の検討グループを作り、じっくり考えていくことになりました。

後半は、こども日本語教室を利用している児童・生徒の様子について情報交換を行いました。中学3年生で高校受験を間近に控えたある生徒は、これから面接が残されています。そのため3回の模擬面接を手分けして行い、対策を練ったそうです。日頃の学習指導は受験にも密接に関係しており、きめ細かな対応をしていることがわかりました。そして、子どもたちにとって大切なのは、まずは高校に進学することであり、卒業までのフォローアップが必要との意見も出され、子どもの将来も含めて考えようとする姿勢に感動しました。

こども日本語教室には様々な子どもが来ており、一人ひとりに適した対応が求められます。子どもたちを担当しているボランティアからの報告を聞いていると、なぜこんなに熱心なんだろうと感心するほどでした。ボランティアの熱意は、子どもたちの成長につながっていくはずですよ。



災害時対応チーム 定例会 取材日：2月6日（土）

「災害時対応チーム」が月1回行っている定例会取材しました。

小平市で災害時に避難所で使用する避難者登録用紙の多言語版をKIFAで作成しています。健康確認チェックシートが感染症対策で追加されたので、「やさしい日本語」に直しました。外国人に分かりやすく、理解しやすいように表現を直していきます。初級レベルの日本語ができる外国人に向けたものなので、分かりやすいのはもちろんのこと、災害時にボランティアに入る日本人も混乱しないように簡単なものが望ましいなど、多くの意見が出されました。

続いては今年度の反省です。会議では以下のような意見が挙げられました。

- ・主な活動として年三回の防災マップウォーキングを行っているが、日本人にもあまり知られていない。外国人に興味を持ってもらい参加してもらうためのPRが足りない。
- ・日本人市民も防災の認識がそこまで高くはないので、外国人であればなおさら防災情報が届きにくい。外国人に向けての防災教育をKIFAだけでなく、周りとの協働し

て行うことが必要ではないか。

- ・日本語教室の学習者だけでなく、小平に住んでいる外国人にKIFAの存在を認知してもらうためにも、これからはSNSを活用することは必須である。
- ・あるメンバーは、台湾の地震のときに、お隣に住む女性に助けられた。最後は人と人のつながりが重要になるので、普段から自分の近所に住む外国人を気にかけるよう、日本人にも声掛けをしていくことが大切である。

この他にもたくさんの反省点が挙げられていました。メンバーの一人一人が、小平に住む外国人をKIFAにつなげるために、これから取り組むべきことや改善点などについて共通の認識を持っていました。「後は行動に移すのみ！」と意見がまとまる時には、予定の時間が過ぎていたほど、熱い議論が繰り広げられていました。

災害時には、日本人も外国人も関係ありません。お互いに助け合うことが必要です。そのためには、普段から近所に住む外国人に関心を持ち、あいさつするなどの声掛けが大切です。防災に興味のある方、近所にお知り合いの外国人がいる方、是非声を掛け合ってまずは防災マップウォーキングに参加してみてくださいませんか。



世界の料理ボランティアにインタビュー

取材日：2月4日（木）

世界の料理ボランティアの半谷美恵さんと小宮ミイ子さんは、共に2016年から「世界の料理講座」と、国際交流フェスティバルでのゆでまんじゅう作りに携わっています。半谷さんがKIFAを知ったのは、友達に誘われて始めた保育ボランティアがきっかけだったそうで、その友達が20年もボランティアを続けているのを知り、長く続けられるものと考えて参加しはじめました。

「世界の料理講座」でのボランティアの仕事としては、本番とリハーサルで使う材料の買い出しや調理、講師が書いたレシピの修正、そして本番のサポートです。食材は、その時当番になった2人で調達しますが、時期が旬でないなど材料が見つけないことも多いです。ロシア料理のボルシチに使うビーツ（赤かぶ）を探しに何件もスーパーを回ったり、流通していない牛レバーの代わりに豚レバーを使ったことがあるそうです。特に珍しい調味料や食材は、講師が用意してくれることもよくあります。

7、8人のボランティアと講師で行うリハーサルでは、出来上がりの量や品数で受講生が満足できるかを皆で相談します。本番当日は、受講生の班別作業が遅れていたらボランティアが手伝いますが、それ以前に手順を工夫したり、ゆで卵のような時間のかかるものはあらかじめ作っておくなど、下準備

がととても大事だという話でした。

異国の料理をして得られた新しい知識を家庭で試すこともあるようです。例えばインドネシア料理のナシゴレンは、仕上げに千切りキャベツをどっさり加えるので、油をたくさん使うわりにあっさりしています。チャーハンを作る時にも同じようにしていると、半谷さんが教えてくれました。



左から小宮さんと半谷さん

講師はKIFAに関わる外国の方をお願いしています。皆熱心で、祖国の母親にレシピを聞いたりして、講座開催に向けて一生懸命取り組んでくれます。家庭料理なので、自分の子どもに辛さを合わせていることもあり、そんな時は生活の背景が見えます。国と国というより、人と人の繋がりを感じられると、小宮さんがにこやかに話してくれました。講師が急用で本番直前に帰国してしまい、講座当日ボランティアだけで受講生に教えたこともありました。

様々なハプニングに対応しながらも、仲の良いお二人が、肩肘張らずにボランティアを楽しんでいるのが、とても印象的でした。

翻訳・通訳ボランティアにインタビュー

取材日：2月6日（土）

翻訳・通訳ボランティアは、外国人と地域を結ぶ、KIFAでもとりわけ特徴的なグループです。主に市の行政機関や学校などから通訳や翻訳の依頼を受けて活動しています。現在登録者は30数名で、英語と中国語が多いですが、さまざまな言語、中でもタガログ語やベトナム語などアジア言語の通訳翻訳も求められています。

今回の取材では、同グループの廣島由紀さんと水谷靖子さんにお話を伺いました。廣島さんは約2年前に小平に転入され、KIFAのミニレターを見てボランティアを始めました。水谷さんは、市報こだいらでKIFAを知り、4～5年前から活動しています。翻訳・通訳ボランティアは個人で行うことが多いので互いに初対面でしたが、今回偶然にも、お二人ともオランダ在住経験があり、外国での子育てを体験されていることがわかりました。



左から廣島さんと水谷さん

廣島さんは小学校の入学説明会や

教師との面談、最近健康センターで妊婦講習会の通訳をされたことがあり、水谷さんは乳幼児健診の付き添い、小学校の面談、そしてお料理教室（公民館主催）の通訳等の経験があります。

お二人とも、通訳ボランティアを通して小学校の先生や保健師さんなど、普段の生活では関われないさまざまな人と出会うことが楽しいそうです。また、一方的に外国人を助けるのではなく、英語の使い方や相手の文化などを一層学びたい気持ちになり、自身の向上につながるとおっしゃっていました。

水谷さんは、通訳をするとき、自分の感情や価値観を入れずに黒子に徹し、できるかぎり意識を避けるということです。一方廣島さんの場合は、中立的な立場ではあるものの、黒子に徹しているわけではないそうです。英語を母語としない人が自分の思いを語彙的に伝えきれない時などは、仲介役として内容を補足表現して代弁することもあると説明されました。

お二人はもともと英語に興味があって、海外に行く前から英語関連の勉強や仕事をされていたが、さらにそれぞれの人生経験を生かしてボランティアをしています。しかし高度な言語力や海外体験がなくても翻訳や通訳はできるということでした。

インタビューを通して、翻訳・通訳ボランティアは、それぞれの生活体験を活かしながら、楽しんで続けられる活動という印象を受けました。

小平市主催 やさしい日本語講座 ～外国人と日本語で話そう～ 2月11日(木) 中央公民館

コロナ禍対策で募集を絞ったにも関わらず、「やさしい日本語講座」には定員いっぱいの22名が参加し、関心の高さがうかがえました。前半はやさしい日本語ツーリズム研究会代表の吉開章氏、後半は多文化子育ての会 Coconico 代表で地域日本語教育コーディネーターでもある井上くみこ氏が講演しました。小平市で講演をするのは4回目という吉開氏が冒頭で述べた「外国人への日本語教育に飽きたことがない」の言葉には、とても感銘を受けました。

現在、日本で暮らす外国人が約300万人います。その外国人に一番通じる言葉は日本語です。英語ではありません。はじめから日本語が通じない人と決めないで、分かるような日本語で話す方法があります。それが『やさしい日本語』です。残念ながら、『やさしい日本語』は使う日本人にとってはやさしい(易しい、優しい)ものではありません。私たちが普段



話している日本語は、外国人にとっては混乱する言葉と表現が入っているのです。

そこで、基本法則『は・さ・

これからの行事予定

- ◎日本語会話教室 通年 月・金・土曜日
- ◎こども日本語・学習支援教室 通年 水曜日
- ◎英会話教室 前期(4～7月)・後期(9～翌3月)
- ◎スペイン語講座(入門) 5月～翌3月 金曜日
- ◎国際子どもクラブ 5月～7月 土曜日

※詳しくはKIFAミニレターおよびHPをご確認ください。

みの法則』にしたがって、「はっきりと言う」「さいごまで言う」「みじかく言う」にします。つつい親切心で、たくさんの説明をしがちですが、必要な情報を選んで、なくてもいいものは切り捨てる勇気が必要です。擬態語や敬語、熟語、カタカナ英語もNGです。コツがわかれば、難しいことはありません。

最後に井上氏が、外国人の子どもと日本語について触れた際の「日本で育つ子どもです。日本社会で育てる責任があります。」という言葉には、身の引き締まる思いがしました。また、「多文化共生は、おなじって嬉しい!!ちがうって楽しい!!」と言われたのは、とても良い表現だと思いました。

吉開章氏：やさしい日本語ツーリズム研究会
(<https://yasashii-nihongo-tourism.jp/members/yoshikai>)
井上くみこ氏：多文化子育ての会 Coconico
(<https://www.facebook.com/CoconicoUrawa>)

令和3年度は 次のような事業を行います

I 国際理解及び国際親善の普及事業

国際子どもクラブ、日本語会話教室、英会話教室、外国語会話教室、日本語発表会、こども日本語・学習支援、多文化理解講座 in English

II 地域における友好交流事業

国際交流フェスティバル、ホームビジット、スポーツ交流の促進、交流イベント

III 地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業

世界の料理紹介、外国人のための日本文化体験教室

IV 国際交流情報の収集及び地域への提供事業

機関紙(年3回)・情報紙(年10回)の発行、生活情報提供、ISDAKプロジェクト参加、翻訳・通訳事業、災害時外国人支援センター運営

V その他協会目的達成事業

ボランティア活動推進、市民まつりパレード参加、新年交流会、連携事業

編集後記

年始早々悲しい訃報が届きました。機関紙ボランティアで一緒だった山田幸男さん、昨年末のミーティングで「よいお年を」と挨拶を交わしたのが最後になりました。足掛け8年ボランティアを共にした同志を失い寂しさ一杯です。でも山田さんの記事はしっかりとアーカイブされています。時代とともに進化するKIFAの活動、山田さんの足跡を辿り、バトンをつないで語り継いでいきます。(K.H)

令和3年度収支予算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)

● 収入の部		(単位: 円)
科目	予算額	
賛助会費収入	1,165,000	
補助金収入(市補助金ほか)	14,300,000	
寄付金収入	20,000	
積立金繰入	1,200,000	
事業収入	6,410,000	
雑収入(預金利息等)	1,000	
前年度繰越金	1,270,000	
収入合計	24,366,000	
● 支出の部		(単位: 円)
科目	予算額	
事業費	9,212,000	
国際理解及び国際親善の普及事業	6,214,000	
地域における友好交流事業	466,000	
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	131,000	
国際交流情報の収集及び地域への提供事業	1,955,000	
その他協会目的達成事業	446,000	
管理費(管理運営費)	15,053,000	
積立金	1,000	
予備費	100,000	
支出合計	24,366,000	



発行日 2021年4月1日
発行 小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003

